

利益との整合性をどのように解決するのか。アシモフのロボット三原則は破綻した。どんな形で人類の安全を担保するのか深い議論をしなくてはならない。

生成AI開発には膨大な電力、莫大な資金と設備を要す

呪文がなくても「書く」。カオスな世界のことを

池上貴子

生成AIへの指示語を「プロンプト」と言い、日本人は俗にこれを「呪文」と呼ぶのだという。私をはじめChatGPTで表示した「呪文」（プロンプト）は、次のようなものだった。

「以下の条件を組み込んだ短編小説を書いて。一、主人公は蛙。二、月のモチーフを三回使う 三、文字数は八〇〇字以内」

「実行」を押して瞬く間に、不思議な月の魔法と勇気のな
い蛙の旅についての童話が完成し、驚愕した。ご丁寧
に「Enchanted Frog's Moonlit Journey」（魔法をかけられた蛙
の月光に照らされた旅）というタイトルまで添えて。

呆氣にとられながらも、すかさず次のプロンプトを表示

る。生命体は脳を含め省エネで自身を維持するようにできている。人工知能の何と高コストなことか。汎用人工知能は自己供給型に進化できるのだろうか。考えるほどに混沌とするばかりだ。

させた。

「では、この小説を三島由紀夫風に変更して。」

やはり瞬く間に、流暢な文語文が紡がれていく。しかし、残念ながらそれは全く三島の文体ではなかった。

ちなみに、いたずら心で、ご本人たちを前に、『北川透』と『渡辺玄英』の詩の特徴と代表作について教えて」と、プロンプトを表示したところ、結果は、両氏ともに「自然」派の「抒情」詩人で、代表作が「川のある風景」、渡辺さんが「蓮の花」という、爆笑ものの完全なるデタラメだった。

さて、三島の文体に似ても似つかなかったからといって、「だからAIは人間を超えない」と結論づけるのは、自分をだますようなものだろう。少なくともChatGPTは「普通の人を書く文章」レベルを軽く超えているのだから。どれだけの日本人が、豊富な語彙を滑らかに使用した文章を書けるだろうか。正しい日本語というよりは、揺らぎのない文体を持つそれは、「架空の日本語」とさえ言えるだろう。

新たな言語表現の世界に突入したことが一瞬にして理解できたのが、この Chat GPT 体験だった。

生成 AI がどのような言語認識処理の技術で、正確に文脈を理解し、滑らかな文脈で返答することを可能にしたのか。そしてこの技術がどのような歴史を持ち、今後、世界をどう変えていくのか。IT 素人の私にとって、日経ビジネス、日経クロステック、日経トレンドが総力を結集して編集したビジネス書『ChatGPT エフェクト 破壊と創造のすべて』（日経 BP、二〇二三年六月）は、適切な入門書だった。本書は生成 AI の成り立ち、特に大規模言語モデルの技術がいかに蓄積され進化していったかが、ドラマティックに説明されている。

なかでも印象的だったのが、グーグルの研究者たちが発表した論文「データの理不尽な有効性」（二〇〇九年、Alon Halevy, Peter Norvig, and Fernando Pereira 原題: The Unreasonable Effectiveness of Data）の内容だ。「洗練された高度なアルゴリズムは大量のデータに太刀打ちできない」と言う研究者たちの主張は、「ビッグデータ」時代の幕開けを宣言する言葉として、各界に衝撃を与えた。Chat GPT が「文脈」に適合する言葉を抽出できるのは、膨大な言語の蓄積であるこのビッグデータと、重要でない単語を無視して注目すべき単語を抽出する「トランスフォーマー」

という深層学習手法の技術による。この技術は、「普通の人を書く文章」のレベルなら、ビッグデータに蓄積された言語でまかなえるという事実を冷酷に示すものだ。世界トップレベルで習得が難しいと自負してきた日本語だが、AI によってほぼ攻略されたと考えた方がいい。

しかし、言葉が「攻略」された方がいい場合はあるのだ。IT 導入過渡期にある現代では、コンビニやスーパーの支払い、ファミレス等の注文や支払いは、いまだに「検索機能」でボタンを辿っていく方法のままだ。UI（ユーザーインターフェイス、要は「使い勝手」）が悪く、主に高齢者の足を遠のかせている。もし、このまま生成 AI 技術が発達すれば、音声だけで望みが達成できるようになるだろう。白辺陽『生成 AI 社会を激変させる AI の想像力』（SBクリエイティブ、二〇二三年六月）では、生成 AI が「アシスタント AI」となって、検索重視の社会を改善すると予想している。特に日本は超高齢化社会になることが決定されている国だ。少子化で人手不足の社会で、高齢者の安定的な生活線と、豊かな生活動線を守るのは、このアシスタント AI の進化にかかっているかもしれない。

無論、生成 AI のネガティブな面からも眼は離せない。白辺陽もまた、著作権やフェイクニュース、教育（課題作成や論文）、就職（業種）などの社会問題を取り上げたが、